



1949年、チェコスロヴァキア(当時)の東部スロヴァキア地方の首都ブラティスラヴァに創立された、スロヴァキア最初の国立オーケストラ。

初代首席指揮者は、チェコの伝説的な名指揮者ヴァーツラフ・ターリヒ。このオーケストラの設立に尽力し、短期間で第一級の水準に育成した。以後、「ブラハの春」音楽祭、「ブラハの秋」音楽祭(チェコ)、ブラティスラヴァ音楽祭、ウィーン芸術週間、ウィーン・モデルン、リンツ・ブルックナー音楽祭、ベルリン音楽祭、フィレンツェ五月祭といった著名国際的音楽祭への参加も多く、アジア、全米、全欧への演奏旅行も頻繁に行っている。

レコーディングも多く、スプラフォン(チェコ)、オーパス(スロヴァキア)、ナクソス(香港)といったレーベルから多数のディスクをリリースしている。

2020/21シーズンからダニエル・ライスキが首席指揮者に就任。レオシュ・スワロフスキーは常任客演指揮者。

1980年の初来日以来、卓越したアンサンブルと力強い演奏、民族的な色彩感で高い評価を得ており、日本で多数のファンを獲得している。



## 次世代の巨匠 ダニエル・ライスキ(指揮)

Daniel Raiskin  
conductor

著名な音楽学者のもとに生まれ、サンクトペテルブルクで育つ。ヴァイオリン、ヴィオラ、指揮を学ぶ。マリス・ヤンソンス、ネーメ・ヤルヴィといった名匠たちの教えを受けた。

2005年から16年までライン・フィル州立管、08年から15年までアルトウール・ルービンシュタイン・フィルの首席指揮者を務めた。現在、スロヴァキア・フィル首席指揮者、ウィニベグ響音楽監督、ベオグラード・フィル首席客演指揮者。

これまでに、デュッセルドルフ響、ハノーファー北ドイツ放送フィル、シュトゥットガルト・フィル、ロシア国立響、マリンスキー劇場管、モスクワ・フィル、サンクトペテルブルク・フィル、モーツァルト・テウム管、ワルシャワ国立フィル、ベルギー国立管、リヨン国立管、ウィーン・トーン・キュンストラ管、大阪響、日本センチュリー、神奈川フィル

などと共演。エマニュエル・アックス、ルネ・フレミング、ネルソン・フレイレ、ジャンヌ・ヤンセン、ラン・ラン、ミッシェル・マイスキー、オリム・ストネン、ジュリアン・ラクリン、ヤン・リシエツキ、五嶋みどり他多数の演奏家と共演。

録音も多く、中でもブラームス交響曲全曲、ショスタコーヴィチ交響曲第4番、マーラー交響曲第3番は特に高い評価を得ている。最近の録音は、グラス交響曲集、ハチャトゥリアン協奏曲及びラブソニー集、ルトスワフスキの声楽作品、タンスマンの「預言者イザヤ」「詩篇唱」など。

<http://danielraiskin.com/en>



## 個性的才能 オルガ・シェプス(ピアノ)

Olga Scheps  
piano

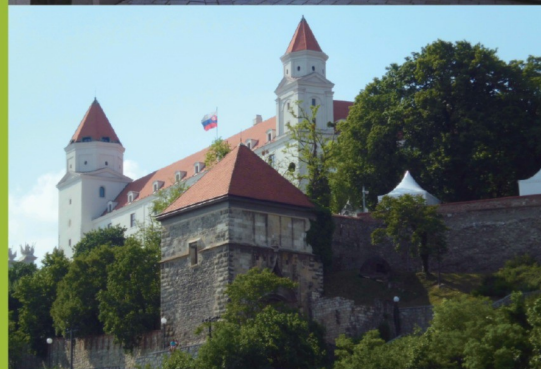
1986年、モスクワ生まれ、6歳の時にドイツに移住。現在はケルン在住。ケルン音楽・舞踊大学でバヴェル・ギロフに師事。バシキロフなどの元で研鑽を積む。また、A.ブレンデルから認められた実力派ピアニスト。シュレスヴィヒ=ホルシュタインなど著名な音楽祭にも招かれている。

ベルリン、ハンブルク、ミュンヘン、フランクフルト、シュトゥットガルト、ウィーン、ケルンなど世界の主要都市で頻繁にリサイタルを行っている。これまでに北ドイツ放送響、シュトゥットガルト放送響、ザルツブルク・モーツァルト・テウム、イスラエル・フィルなど著名なオーケストラと共演。シェプスは2016年には東京交響楽団、2018年には新日本フィルとも共演し、その演奏は日本の聴衆からも大きな賞賛を受けた。

ソニー・クラシカル/ RCAの専属アーティストとして、既に5枚のCDを発表している。

デビューCDのショパン作品集はECHOクラシック賞を受賞。以後のCDも常に好評を博し、特に2015年に発表されたサティの作品集は、チャートで1位を獲得するなど、高い評価を得た。2023年、オルガ・シェプスのピアノソロCD『MELODY(メロディ)』が日本でリリースされた。2025年、国立カナダナショナル管弦楽団日本ツアー参加。

<https://www.olgascheps.com/en/home/>



## スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団 日本ツアー

6/27(土) 名古屋 愛知県芸術劇場

7/2(木) 浜松 アクトシティ浜松

7/5(日) 福島 ふくしん夢の音楽堂

6/28(日) 大阪 フェスティバルホール

7/3(金) 小田原 小田原三の丸ホール

7/7(火) 東京 サントリーホール

6/30(火) 三重 三重県文化会館 大ホール

7/4(土) 山形 山形テルサ

7/8(水) 新潟 りゅーとぴあ